

2003年度行動計画目標などの達成状況

紙資源節減については、純正パルプ全使用量の98.6%を占める電話帳において、ハローページの発行方法の見直し等による紙資源の節減と古紙配合技術の向上に努めた結果、全体量を対前年度6%削減しました。

温暖化対策については、CO₂総排出量の92.7%を占める電力使用について、インターネット系通信サービスや他社設備のコロケーション、ハウジング等による電力需要が著しく増大し、その結果CO₂排出量も増加傾向となりましたが、TPR運動の強力な推進により、排出量を対前年度1.6%増に抑制しました。また、社用車からのCO₂排出分についても、低燃費車両の導入促進及びアイドリングストップ活動の徹底により排出削減に努めました。営業活動の進展などによる走行距離の伸びにより増加傾向にあります。なお、2002年度よりNTTマーケティングアクトグループ、NTTネオ

メイトグループを管理対象に加えたことにより管理対象の社用車台数が大幅に増加しています。

廃棄物対策については、コンクリート電柱の100%リサイクル完全実施を始め、土木・建築工事で発生するコンクリート塊などの再生資源の利用促進により、産業廃棄物の廃棄量(=排出量-リサイクル量)を対前年度より大幅に抑制でき、全体として約15%削減しました。

下表のとおり、紙資源対策、廃棄物対策については、2003年度目標をクリアできましたが、温暖化対策であるCO₂排出量の抑制については、通信電力需要の増大がIT化という社会動向と不可分の関係にあることから、NTTグループ各社と協力して、情報流通サービスによる社会的な環境負荷低減効果等も視野に入れながら、環境管理手法や2010年度目標値の見直しを検討しています。

行動計画目標 (2010年度目標値)	実行管理項目	2010年度 目標値	1998年度 実績(注)	1999年度 実績	2000年度 実績	2001年度 実績	2002年度 実績	2003年度 目標値	2003年度 実績	2003年度 の自己評価	2004年度 目標値	掲載 ページ
紙資源節減	純正パルプ 総使用量 1998年レベル 以下にする。	電話帳純正パルプ使用量	3.9	3.6	3.7	3.1	2.5	1.9	1.8	1.8	○	1.8 P19
		電報台紙純正パルプ使用量	0.044	0.0530	0.0352	0.0302	0.0275	0.0248	0.0243	0.0246	○	0.0238 P21
		事務用紙純正パルプ使用量	0.047	0.0534	0.0672	0.0311	0.0017	0.017	0	0.0015	△	0 P21
		合計(万t)	4.0	3.7	3.8	3.2	2.5	1.9	1.8	1.8	○	1.8 -
温暖化防止	CO ₂ 総排出量 1998年レベルの 70%以下にする。	電力使用によるCO ₂ 排出量	10	14.9	15.2	15.6	16.6	18.8	18.8	19.1	△	19.1 P22
		社用車からのCO ₂ 排出量	0.63	0.36	0.39	0.36	0.30	0.77	0.75	0.86	△	0.86 P23
		ガス・燃料消費によるCO ₂ 排出量	0.7	0.6	0.70	0.64	0.70	0.68	0.67	0.62	◎	0.62 P24
		合計(万t-C)	11	16	16.3	16.6	17.6	20.3	20.2	20.6	△	20.6 -
廃棄物削減	産業廃棄物の 最終総廃棄量 1998年レベルの 50%以下にする。	撤去通信設備廃棄物廃棄量	0.5	1.3	1.3	1.1	1.0	0.2	0.19	0.16	◎	0.16 P25
		土木工事産業廃棄物廃棄量	0.35	1.2	3.2	2.5	1.4	1.2	0.4	0.01	◎	0.03 P27
		建築工事産業廃棄物廃棄量	1.5	3.1	1.9	1.9	2.0	1.2	-	2.0	○	- P28
		再資源化率(%) ^(※1)	80%	61%	70%	88%	89%	88%	89%	89%	○	90%
		オフィス内産業廃棄物廃棄量	0.28	0.26	0.25	0.44	0.35	0.32	0.21	0.31	△	0.19 P28
		合計(万t)	2.6	5.9	6.7	5.9	4.8	2.9	-	2.5	◎	-

注) 1998年度実績は推計値

※1 管理対象は再資源化率

2003年度の環境保護活動の主な取り組み

長寿命エコ鋼管柱の開発・導入

当社は西日本地域に多数の鋼管柱を敷設しています。鋼管柱は、ブロードバンド通信を支える重要な通信インフラ設備の一部であり、設備・資源の有効活用、廃棄の問題を考慮し、鋼管柱の長寿命化に取り組んでまいりました。

鋼管柱は、その下部を地面に埋設し固定しますが、鋼管柱の長寿命化のポイントは、地下という腐食性の高い環境において鋼管柱本体の腐食を長期間防ぐことにあります。この防食用塗装として、これまでタールエポキシ樹脂を使用してきましたが、より優れた防食性を有し、環境3Rの機能を付与する塗装としてPET(※1)粉体塗装技術を開発しました。

この塗装を施した地球環境に優しい鋼管柱(エコ鋼管柱)の導入を2003年11月から始め、新設及び更改の時期がきたものから順次交換しています。

※1 PET:ポリエチレン・テレフタレート。飲料容器などに幅広く使われ、容器リサイクル法でリサイクルが推進されています。



土中で腐食した鋼管柱

<エコ鋼管柱の特長>

エコ鋼管柱は、環境のキーワードである3R(リデュース・リユース・リサイクル)を満たしています。

(1)リデュース:省資源

製品寿命(ライフサイクル)が大幅に延びることにより、長期間のサービス提供を考えた場合、必要な天然資源が大幅に減少します。

(2)リユース:再利用

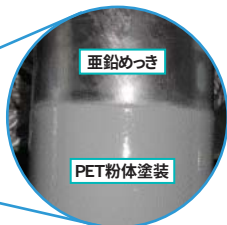
PET粉体塗装が強靱で寿命が長いので、移転等により一度撤去した鋼管柱を再度別の場所で使用できます。

(3)リサイクル:再資源化

鋼管柱自体が鋼(スチール)でできており、廃棄時には良質な再生資源になります。PET粉体塗装の原料には、ペット(PET)ボトルなどからのリサイクル材を使用できます。

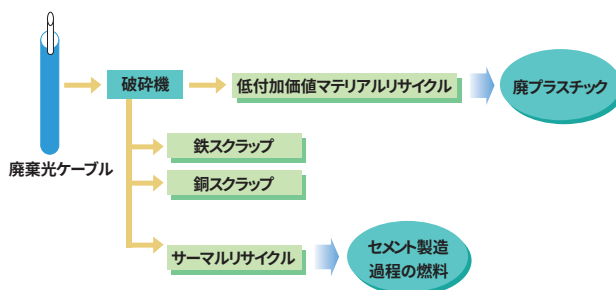


PET粉体塗装を施した鋼管柱



廃棄光ケーブルの95%をリサイクル

当社では通信サービスのブロードバンド化に対応するため、お客様宅までの通信ケーブルを金属ケーブルから光ケーブルへ急速にシフトさせています。シフトに伴い増加する廃棄光ケーブルのリサイクルが課題となっています。2001年に廃棄光ケーブルリサイクルシステムを構築し、ケーブル外被に加えてコア部分も粉碎し、個々の材料へ分別することを可能としました。2003年度は754tの廃棄光ケーブルを回収し、716tをリサイクルし95%のリサイクル率を達成しています(前年度68%)。



グループ会社の環境への取り組み(44ページ参照)

NTTネオメイトグループでは、不用となったパソコンのハードディスクのデータ内容を完全に消去するサービスを2002年度より開始していましたが、2004年1月からは、そのノウハウをベースに「中古パソコン買取り・再生化サービス」を開始し、再利用・再資源化を行っています。

また、NTT西日本から設備の保守を受託しているNTTネオメイトグループでは、通信サービスを提供する重要なインフラ設備である電柱の保守・点検を行い、目に見えて判る劣化や傷みがあれば速やかに取替を行っています。

NTTネオメイト中国では従来は目視点検で確認できなかった地中等隠蔽部の診断が可能な「コンクリート電柱劣化診断技術」を開発しました。

この技術により傷んだコンクリート電柱だけを効率的に取り替える事で廃棄物の抑制ができるだけでなく、電柱の交換工事による近隣住民の皆様へのご迷惑を回避し、また工事により発生するCO₂排出の抑制にも繋がります。

NTTネオメイトグループでは今後も環境に配慮した技術の開発・事業展開を推進していきます。